

新出資料!

400年前に刊行された流転のキリタン版  
現存唯一の孤本、その全貌を初公開!

# ひですの経きょう

高精細カラー版で影印!

Symbolo da Fee

ハーバード大学ホートン図書館所蔵

【序文】同館館長 ホープ・マヨ博士

【釈文・解説】折井善果・白井純・豊島正之

二〇二二年十一月末刊行予定! 【内容見本】



日本語・日本文学、宗教・思想史、書誌学、文化史等々、  
様々な研究分野に進展をもたらす新出資料!

The first facsimile edition of the sole extant copy of "Fides no Quio", or "Symbolo da Fee" (Treatise of Faith), commemorating the 4th centenary of its publication in Nagasaki, 1611. "Symbolo da Fee" is one of the publications that conclude the series of the Jesuit Mission Press in Japan between 1590 and 1614.

八木書店

初期は西欧渡来の活字、後期には日本初鑄造の金属活字を使用したキリタン版。  
本書では更に木活字で補填された実態が判明。日本印刷史を書き換える新資料!  
高精細カラー版の影印、克明な活字注釈を付した釈文、新知見を示す詳細な解説により、  
長崎でのイエズス会出版の実像が眼前にありありと立ち現れる!

# 新出の後期キリタン版! ひですの経きょう Symbolo da Fee

ハーバード大学ホートン図書館所蔵

【釈文・解説】折井善果・白井純・豊島正之

### 【本書の特長】

- 底本は、1611年長崎刊の**天下の孤本キリタン版**。
- 1921年以来90年、杳として行方の知れなかったキリタン版が、いま**高精細カラー版**でよみがえる。
- 所蔵館の全面協力の下、**裏打に隠された断簡**も展延し、**紙背の印圧痕**までも撮影し尽くした、**完璧な複製**。
- 今日のキリタン版研究の最先端を示す**詳細な解説**。
- 釈文**には、一字一字の活字が他の後期キリタン版で使用されているか否かを注記したほか、原本にはない**キリタン特有のよみ**(「御掟」等)を**ルビ**に示して、読書用本文としても読み易きを目指した。

【ご購入の案内】 ISBN978-4-8406-2084-0 C3016 ¥23000E

造本 B5判上製本・カバー装・約300頁予定

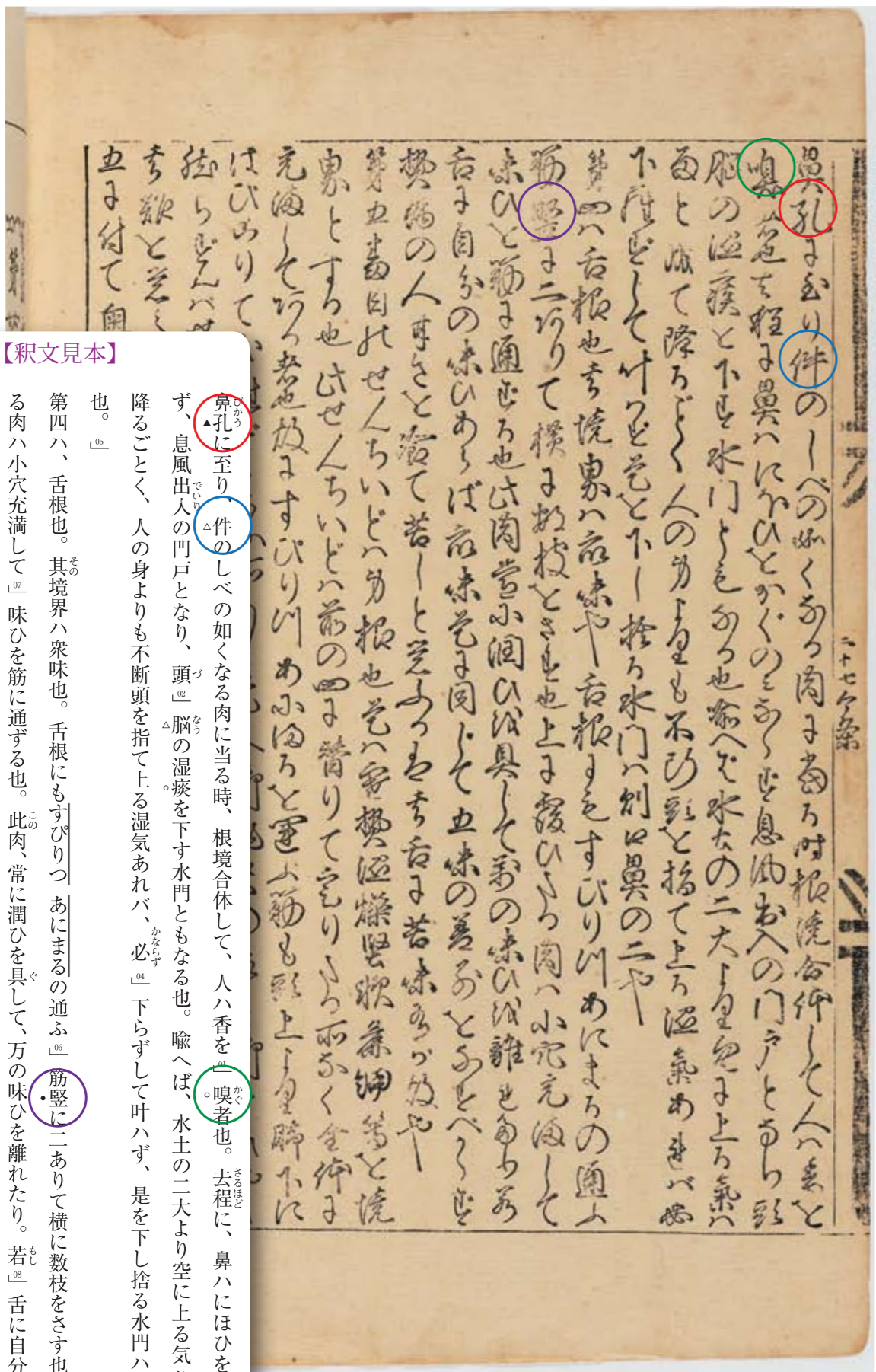
印刷 影印本文：オールカラー印刷

製版 高精細ハイブリッドスクリーニング製版 (AGFA スブリマ 240線)

定価 24,150円 (本体23,000円+税5%)

【発行】 **八木書店** 出版部 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-8  
Yagi Bookstore Ltd. Publishing Dept. ●TEL:03-3291-2961 [営業] 03-3291-2969 [編集] ●FAX:03-3291-6300  
●E-mail:pub@books-yagi.co.jp ●Web: http://www.books-yagi.co.jp/pub

申 込 書	八木書店刊 2011年11月末刊行予定 取扱店(番線印)	
	ひですの経 <small>きょう</small> [ ]冊	
	ISBN978-4-8406-2084-0 C3016 ¥23000E 定価24,150円(本体23,000円+税5%)	
	お名前(ふりがな)	TEL
	ご住所 〒	FAX
		E-MAIL



【釈文見本】

鼻孔に至り、件<sup>○</sup>のしべの如くなる肉に当る時、根境合体して、人ハ香を<sup>△</sup>嗅<sup>●</sup>者也。去程<sup>▽</sup>に、鼻ハにほひをかぐのみならず、息風出入の門戸となり、頭<sup>△</sup>腦<sup>●</sup>の湿痰を下す水門ともなる也。喩へば、水土の二大より空に上る気ハ<sup>△</sup>雨と成て降ることく、人の身よりも不断頭を指て上る湿気あれば、必<sup>△</sup>下らずして叶はず、是を下し捨る水門ハ、則口鼻の二也。<sup>△</sup>第四ハ、舌根也。其境界ハ衆味也。舌根にもすびりつ<sup>△</sup>あにまるの通ふ<sup>△</sup>筋<sup>●</sup>に二ありて横に数枝をさす也。上に覆ひたる肉ハ小穴充滿して<sup>△</sup>味<sup>●</sup>を筋に通ずる也。此肉、常に潤ひを具して、万の味<sup>●</sup>を離れたり。若<sup>△</sup>舌に自分の味<sup>●</sup>ひあらば、衆味<sup>●</sup>是に同じて五味の差別をなすべからず。<sup>△</sup>熱病の人甘きを喰て苦しと覺ふるは、其舌<sup>●</sup>に苦味有が故也。<sup>△</sup>第五番目のせんちいどハ身根也。是ハ寒熱湿燥堅軟麁細等を境<sup>△</sup>界とする也。此せんちいどハ、前の四に替りて、定りたる所なく全体に<sup>△</sup>充滿してある者也。故にすびりつ<sup>△</sup>あにまるを運ぶ筋も頭上より脚下に<sup>△</sup>はびこりて、至らずと

【釈文に付した活字種別の符号】  
○=『ひですの経』のみに見える文字  
●=『ひですの経』と『太平記抜書』のみに見える文字  
△=『ひですの経』のみに見える活字(文字自体は他のキリシタン版にもあり)  
▲=『ひですの経』と『太平記抜書』のみに見える活字  
▽=『ひですの経』と『太平記抜書』のみに見える文字で、且つ『ひですの経』にしかない活字

# ひですの経

は、1611年(慶長16)に長崎で刊行されたキリシタン版である。その内容は、ドミニコ会のスペイン人説教師ルイス・デ・グラナダ著『使徒信条入門』(1583年)の、第一巻相当部分の抄訳であることが、このたび初めて明らかになった。未信者や入門者にデウス(創造主)の存在を説くものである。本書は1907年にベルリンの古書店目録に掲載された表題紙のみが紹介されて以来、内容不明のまま、研究者の搜索の甲斐なく行方不明になっていたが、2009年7月、米国ハーバード大学ホートン図書館においてその存在が確認された。

## デウスの存在を日本人に証明

慶應義塾大学専任講師 折井善果

一九〇七年、独ベルリンの古書店の目録に掲載された『ひですの経』の存在は、一九二六年、岡本良知氏によって日本に報じられた。その後ラウレス神父により、米シカゴの某実業家に渡った可能性が示されて後、長らくその追跡は途絶えていた。そして近年、豊島正之氏によって再開されていた同書の追跡は、二〇〇九年、米ハーバード大学でその結末を迎えることになった。

キリシタン版は、その複雑な歴史ゆえに、漢籍に紛れて発見されることがあり、また日本語・日本文字にも関わらず、活版印刷ゆえに洋書に分類されることがある。また稀書ゆえに個人蔵となつて一般の目に触れられなくなることもある。二十世紀初頭のジャポニズムの流れに乗って米東海岸に辿りついた『ひですの経』がこうして無事再発見された背景には、ハーバード大学同窓生の旧所蔵者ステイルマンの存在という、もうひとつのドラマがある。

序章に「目に遮る物を以て肉眼にかり給わぬデウスと其御善徳を見知り奉るべし」と聖書の一句を掲げる同書は、自然界の秩序と美の観察から、超自然なる万物の創造者デウスの存在を、当時のスコラ学概念さえ用いて日本人に証明しようと試みる。ザビエル以来のイエズス会の日本語研究、徹底的な論理と雄弁術を駆使したデウスの存在証明が、徳川封建思想勃興期の日本の知識人に与えた動搖の程を暗示する内容である。

ヨーロッパに古くから存在することの多いキリシタン版が、アメリカに存在する例は極めて少ない。『ひですの経』が東西異文化交流の懸け橋として、また新たに日米交流の懸け橋として担う役割に、一冊の本の重みを感じずにはいられない。

## 四百年前の金属活字印刷を解明

東京外国語大学教授 豊島正之

キリシタンものと言えは、先ずは天草版イソポ物語のような口語体である。確かに、口語体本には芥川「奉教人の死」のようなオマー・ジュまで生むインパクトがあり、学的興味も、専らこうした口語版本か或いはせいぜいローマ字版本が対象で、漢字仮名交じり「国字本」版本は、キリシタンものとはいえず所詮は国字本、さしたる関心と呼ばず、論文も数える程であった。

状況が一転したのは印刷史の観点が導入された十年程前からで、日本古活字版の祖を、版式から(通説の朝鮮活字版ではなく)キリシタン版に辿る説は、もはや事新しく説くまでもなく、初期キリシタン版の漢字活字が本邦製作ではなく、天正遣欧少年使節が滞在中に発注して持ち帰った西欧製金属活字である事も判明している。

後期キリシタン版の白眉『ぎやどべかどる』(二五九)に比して、その後十年余を経て成つた本書『ひですの経』は、私底した金属活字を木活字で補い、漢字を変体仮名と誤認、用字法は一貫せず、他キリシタン版には絶無の抄物書までも併せ用いる等、言語・組版規範が随所で破綻している。『ぎやどべかどる』には見えないこの破綻は、却つてその背後の追求した規範の存在と印刷技法とを鮮明に照らし出す。本書裏表紙に反故として隠された本書の断簡は、本書の改版過程を示唆し、キリシタン版制作の現場を眼前に描き出す、希有の資料である。

時あたかも本書開板(二六二)の四百年紀に当たり、キリシタン版の言語規範・印刷技法解明への絶好の資料が、所蔵館の御理解の下、精細な画像により再び世に頒かれる事に、感謝したい。

## キリシタン版について

安土桃山時代から江戸時代初期(十六世紀末〜十七世紀初)にかけて、イエズス会によって導入された西欧の活版印刷術で印刷された書物をキリシタン版と称する。

ローマ字本・国字本があり、内容はキリスト教の布教伝道のための書物を中心に、『平家物語』『和漢朗詠集』など国文学、『伊曾保物語』のような翻訳文学、『落葉集』『日葡辞典』のような辞書類等、布教者・信者の教育を企図したものであった。

天正十八年(一五九〇)、イエズス会宣教師アレックスサンドロ・ヴァリニャーノによる印刷機搬入に始まり、約二十年后、慶長十九年(一六四四)の禁教令で、日本での刊行事業は終焉をむかえた。その刊行書はいずれも伝存きわめて稀で、天下の孤本も少なくない。

『ひですの経』(二六二)は、重要文化財に指定されている『ぎやどべかどる』(二五九)、『天理図書館善本叢書38所収・『落葉集』(二五九八)』(同叢書76所収)と同一の金属活字で印刷された、後期キリシタン版の一つであり、このたび所蔵館の御快諾を得て、初めて全面複製されるものである。

